

### 香港上海銀行の行内資金循環, 1913年

西村, 閑也 / ニシムラ, シズヤ / NISHIMURA, Shizuya

---

(出版者 / Publisher)

法政大学経営学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

経営志林 / The Hosei journal of business

(巻 / Volume)

30

(号 / Number)

1

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

26

(発行年 / Year)

1993-04-30

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00015991>

# 香港上海銀行の行内資金循環，1913年

西村 閑也

## I

香港上海銀行（中国語では匯豐銀行と称する）は、いうまでもなく極東アジアにおける最大手の国際銀行である。この銀行のアジアにおける活動の実情は長く秘密のとばりに包まれていたが、1983年ごろから同行の香港上海匯豐銀行集団歴史档案部 The Hongkong and Shanghai Banking Corporation Group Archives 所収の内部資料が整理され、条件つきで研究者に公開されるようになった。本稿は1914年までの20世紀初頭における同行店舗間での資金の回流の状況を明らかにしようとするものである。資料としては支店検査役報告書 Inspectors' Reports および支店長の本店への報告書 Managerial Correspondence を用いる。これらの資料には各支店ごとの貸借対照表の主要勘定科目の数字が示されているからである。しかしながら、香港上海銀行（以下ではH S B Cと略す）は本店を香港に置いており、特定の国の会計基準にしたがっているわけではなく、独自の会計処理をしているので、内部資料によって各勘定科目の定義をたしかめないと、数字の意味を正確に理解することができない。そこで、正確なバランス・シートと元帳 General Ledger が残されている唯一の支店である天津支店について、1889年、1898年、1907年、1913年のバランス・シートを示し、その内容を検討することから始めよう。

## II

周知の如く、廢兩改元の実行された1933年まで中国の貨幣単位は銀両であり、その銀両にも庫平両 Kuping Tael, 海関両 Haikwan Tael, 上海両 Shanghai Tael など数十種類の両が存在した。当面の対象である天津では天津両（又は行平両

Hongping Tael）が流通しており、その対メキシコ・ドル換算はH S B C では1天津両=1.42857メキシコ・ドルとされていた。メキシコ・ドルの銀純分は、カン Eduard Kann によると、規定上は377.14グレインであるが、現実のそれは374グレインにすぎない<sup>(1)</sup>。他方、天津両の銀純分は555.5グレインの筈であり<sup>(2)</sup>、したがって両者の換算比率は1天津両=1.48536メキシコ・ドルである。ところが、H S B C天津店では交換比率を1.42857としている。これは実は100メキシコ・ドル=70天津両とする略式計算を用いていたからである。

これを前提として、1889年11月30日、1898年11月26日、1907年11月30日、1913年12月31日の天津店のバランス・シートを表一として示すこととしよう。なお、これらの年月日をえらんだのは特別の理由があるわけではない。天津支店のバランス・シートがとれるのは、1889~98年、1902~14年の二つの時期なので、1889と1898年をとり、また世界景気の上方転回点である1907年と1913年のバランス・シートをえらんだのである。なお1912年まで、天津支店の半年期の期末は5月31日と11月30日であった。

表一に示される勘定科目のうち説明を必要とするのは、取立為替Bills Receivableである。これは受取手形ではなく、H S B Cの本店又は他支店が自店の勘定で割引いた天津払の手形を取立のために天津店に送付してきたものであり、したがってそれは借方と同時に貸方にも現れて、他店に対する債務の存在が示されている<sup>(3)</sup>。次に Shanghai Branch: their account は注目すべき項目である。後に示す如く、この項目はほぼ一貫して借方に現われ、天津店が上海店に対して債権超になっていることを示す。そして、これを反映して Profit and Loss の項目の中の Adjustment of

## 表一. 香港上海銀行天津支店のバランス・シート (Tls. 000)

Table 1. Balance-Sheet of the Tientsin Agency of the Hongkong and Shanghai Banking Corporation.  
30 Nov. 1889

Cash in Treasury	68	Notes in Circulation:		
Bullion:		Taels	3	
Mexican Dollars Purchased	10	Dollars	22	25
Advances:		Deposits:		
Overdrawn Current a/c	562	Current a/c	498	
Bills Receivable	76	Savings Bank	6	
Loans	165	Fixed Deposits	2,857	3,362
Bills Discounted	2			
Past Due Bills	5			
Peking Agency		Bills Payable		20
Shanghai Branch: their account	2,706	Bills for Collection		87
Bills for Collection	11	Peking Agency: Our a/c		85
Sundry a/cs	5	Sundry a/c		44
Suspense a/c	19	Suspense a/c		6
Profit and Loss:		Profit and Loss:		
Deposits Interest Paid	70	Interest and Discount Paid	82	82
Brokerages	1			
Charges	10			
	82			
	3,711			3,711

26 Nov. 1898

Cash in Treasury	547	Notes in Circulation:		
Bullion:		Taels	0	
Mexican Dollars Purchased	76	Dollars	20	20
Gold Purchased	1	77		
Advances:		Deposits:		
Overdrawn Current a/c	677	Current a/c	69	
Bills Receivable	84	Savings Bank	19	
Sterling Bills Receivable	323	Fixed Deposits	1,406	1,494
Loans	1,145	2,229		
Peking Agency: our a/c	15	Bills Payable		0
Bills for Collection	28	Bills for Collection		28
Sundry a/cs		Bills Receivable		406
Profit and Loss:		Peking Agency: our a/c		0
Deposit Interest Paid	8	Shanghai Branch: their a/c		788
Brokerages	3	Sundry a/cs		17
Charges	10	Suspense a/c		3
Telegrams	1	Profit and Loss:		
Sterling Bills Purchased	13	Interest and Discount Paid	11	11
		Native Orders a/c		
		(p. contra. included in cash)		163
	2,931			2,931



Interest between Branches は貸方に現われて、天津店が他店から利子を受取っていることを示す。1913年12月31日のバランス・シートをとると、その受取額は5.6万両で、Shanghai Branch: their a/c の150.1万両に対して3.7%になる。これは年利7.4%に相当するが、もちろん期中に Shanghai Branch の残は大きく増減し、その平残が末残と一致するわけではないから、店舗間の資金貸借の利

子が7.4%という高水準であったわけではないであろう。

このように天津店が上海店に対して貸付超であったのは、天津店では預金、特に定期預金が多く吸収されており、他方で貸出が少なかったからである。天津店の預金、貸出、上海店への貸付の動きを示すのが表二である。

表二. 香港上海銀行天津支店の預金、貸出、対上海店債権 (Tls.000)

Table 2. Deposits, Advances and Claims on the Shanghai Branch of the Tientsin Agency

Year	Month	Deposits			Advances			Net Claims on Shanghai Branch
		Current a/c	Fixed Deposits	Total*	Overdrawn Cur. a/c	Loans	Total	
1889	Nov.	498	2,857	3,362	562	165	733	2,076
1890	May.	313	3,183	3,522	444	369	817	2,652
	Nov.	383	3,591	3,980	377	226	603	3,317
1891	May.	343	3,858	4,206	413	152	566	3,584
	Nov.	653	3,711	4,415	306	100	406	3,994
1892	May.	53	3,537	3,597	0	172	172	3,243
	Nov.	31	3,444	4,168	434	102	536	3,553
1893	May.	816	3,325	4,147	407	186	593	3,484
	Nov.	925	3,137	4,070	267	509	776	3,266
1894	May.	805	2,846	3,662	211	361	572	3,065
	Nov.	774	1,953	2,738	181	229	410	-1,140
1895	May.	1,299	2,302	4,234	176	176	352	3,517
	Nov.	891	2,229	3,135	109	121	230	2,736
1896	May.	696	2,051	2,774	181	97	278	2,383
	Nov.	640	1,867	2,524	755	234	989	1,078
1897	May.	599	1,802	2,420	928	180	1,108	1,037
	Nov.	434	1,804	2,259	1,275	453	1,727	456
1898	May.	514	1,453	1,991	2,000	515	2,515	66
	Nov.	69	1,406	1,494	677	1,145	1,822	-788
1902	Nov.	3,108	1,668	4,821	604	693	1,297	2,455
1903	May.	2,181	1,331	3,564	581	781	1,362	1,388
	Nov.	1,995	1,332	3,371	1,167	618	1,785	171
1904	May.	2,925	1,372	4,354	441	835	1,276	2,024
	Nov.	2,992	1,732	4,778	571	712	1,283	2,577
1905	May.	4,366	1,921	6,343	623	282	905	4,005
	Nov.	2,437	3,018	5,503	939	452	1,390	2,824
1906	May.	2,823	2,702	5,567	870	273	1,143	3,224
	Nov.	1,962	2,803	4,805	1,556	403	1,960	1,972
1907	May.	2,723	2,703	5,475	708	442	1,149	3,194
	Nov.	1,929	2,842	4,836	1,343	824	2,167	2,041
1908	May.	2,173	3,021	5,255	1,111	1,258	2,368	2,510
	Nov.	2,528	2,608	5,225	931	899	1,830	2,242
1909	May.	2,303	3,010	5,434	733	412	1,145	2,912
	Nov.	3,169	2,322	5,625	924	412	1,335	2,937

表二. 香港上海銀行天津店の預金, 貸出, 対上海店債権 (つづき)  
Table 2. Deposits, Advances and Claims on the Shanghai Branch of the Tientsin Agency

Year	Month	Deposits			Advances			Net Claims on Shanghai Branch
		Current a/c	Fixed Deposits	Total*	Overdrawn Cur. a/c	Loans	Total	
1910	May.	2,009	2,439	4,563	617	349	966	2,615
	Nov.	2,030	2,314	4,443	1,101	243	1,344	887
1911	May.	1,929	2,270	4,290	831	244	1,076	2,778
	Nov.	2,143	2,377	4,654	810	163	974	2,554
1912	May.	2,614	2,301	5,037	725	170	895	1,960
	Nov.	2,717	2,679	5,510	1,100	111	1,211	2,504
1913	June	2,227	2,773	5,093	720	72	792	2,983
	Dec.	2,138	2,905	5,161	1,486	228	1,715	1,504
1914	June	2,477	3,333	5,915	1,116	227	1,343	1,697

- denotes net debts.

\* Includes savings bank deposits and deposits at call.

(Source) Hongkong and Shanghai Banking Corporation Group Archives, SHG LEDG 896,911,912

表二によって、天津店は全体として預金吸収店であり、資金を上海に供給するための存在であることが分る。ではこの預金を保有していた顧客とはどのような階層であったのであろうか。残念ながら、それは不明である。ただ1886年と1889年については定期預金の預金者の名前と預入・引出額を帳簿から知ることができる。ただ、これは銀行の営業上の秘密に抵触するおそれがあるので、個人名は差し控え、かつ大口の預入についてのみ見ることにしてしよう。1889年1月1日～5月31日の間の5%利子付定期預金貸記は計3,832,646両であるが、うち1,126,481両すなわち三分の一は中国政府機関による預入である<sup>(4)</sup>。すなわち

Coast Defence Treasury (Fund)	654,103
Maritime Defence Treasury (Fund)	120,000
Tientsin Customs Taotai's Yamen (天津海関道台衙門)	312,378
Tientsin Arsenal	40,000
	計1,128,481両

また1889年11月30日に定期預金利子のうち現金で支払われず預金に貸記されたものは39,464両である。他方、定期預金は4%利付23,646両、5%利付2,833,994両で、半年期の利子は計71,323両である。そこで、現金で払出された利子は31,859両前後である。また、預金への貸記利子のうち

Coast Defence	14,345両
---------------	---------

Treasury Training Fund	1,889両
Tientsin Customs Taotai (天津海関道台)	1,111々
Taotai's Yamen (道台衙門)	542々
H.E. Wu Taotai (呉? 道台閣下)	503々
Viceroy's Treasury	500々
Tientsin Arsenal	1,030々
Maritime Defence Treasury	211々
合計 (28口座)	20,131両

すなわち、利子貸記総額の51.0%が公金預金に対するものである。ただし、上表の中の H.E. Wu Taotai は呉? 道台閣下であり、道台 (地方政務監察官) の個人預金であったのかもしれないが、これを除いても大勢に影響はない<sup>(5)</sup>。

このように1889年には天津店の定期預金に相当の公金預金が含まれていたと考えられるが、この状況が1900年代、特に辛亥革命以後の1910年代までそのまま続いていたとは考えられない。横浜正金銀行、独亜銀行などの進出があり、1905年には戸部銀行 (後の大清銀行) が設立されたので公金預金の一部はそれらに移しかえられたのではないかと思われる。表二によると天津店の定期預金は1893年以後に大きく減少し始め、1898年11月末には140万364両と1893年11月の半分以下になっている。

他方、義和団の乱以後の中国全体の政治的状況の不安定化は当然に中国人の富裕者層に資金の安全な預け先として租界内の外国銀行を選ばせたで

あろう。1898年には140万両におち込んでいた定期預金は、1914年6月には333万両と2.4倍の伸びを示している<sup>(6)</sup>。

このような中国人富裕者又は中国商社の外銀への預金の傾向はすでに1889年にもその端緒が見えている。89年11月30日に500両以上の利子を貸記された民間人・民間企業はすべて中国系で5口計10,563両、300両以上は9口3,384両で利子貸記総

額の35.3%である<sup>(7)</sup>。

以上を差引いた残り、5,386両が146口座に分かれており、平均一口座当り36.9両で、ここから預金額を逆算すると、一口座平均2,673両にすぎない。この中小の口座は約半分が欧米人であると思われる。

1895年12月～96年5月の半年期についての定期預金利子の状況は表三に示すとうりである。

表三. 香港上海銀行天津支店の定期預金利子 1895年12月—1896年5月 (Tls.)

Table 3. Interest at Credit of Depositors\* at the Tientsin Agency of the HSBC, Dec. 1895—May 1896

	No. of Accounts	Amounts	Average p. Account
Europeans	51	2,609	51.2
Chinese Private Persons and Companies	49	13,060	266.5
Chinese Official Organisations+	6	12,197	2,032.8
Total	106	27,866	262.9

\* These are the amounts credited to the accounts of the depositors. The amounts paid out in cash are not included here. The sum of the latter was Tls. 14,470.

+ The names of these organisations are as follows:

Paoting fu [ 保定府? ] Training Fund

Coast Defence

Treasury Coast Defence

Coast Defence Treasurer

Coast Defence Fund

Tientsin Customs Taotai [ 天津海關道台 ]

(Source) HSBC Archives, SHG LEDG 896

1896年5月の時点では、天津店の定期預金利子貸記額の43.8%は公金預金で、依然として公金預金が大きかった。なお、この時点での定期預金の内訳は次のとおりであった。

3½%利付	1.2万両
4%利付	184.5々々
5%利付	13.8々々
4½%利付	5.6々々

すなわち4%利付が主体であり、これは1年物であったと思われる。1902年11月のバランス・シートによると、定期預金は12カ月、6カ月、3カ月の三種で、主力は12カ月物だったからである。4½%と5%利付のものも12カ月物であったが、大口預金と利下げ前預入の分であったと思われる。なお、ヨーロッパ人で最大の利子をうけとったのは、417両をうけとった Mrs X であるが、同姓の女性が外に3人いて、4人で計792両をうけとつ

ている。年利4%で預金を推定すると39,600両になる。もし現金で利子の一部を受取ったなら、この金額はより大きかった筈である。他方、中国人で最大の利子を受けとったのは、1,574両である。その預金は少くとも78,700両と推定される。なお、1896年における天津両の対英ポンド為替相場の平均は0.1603ポンドであるので、上記78,700両は、12,616ポンド=純金2,970オンスに相当する。<sup>(8)</sup>

ところで、90年代までは、天津店の預金の主力は定期預金であったが、1900年代には預金の主体は当座預金になる。この変化は1898年末から1902年末までの4年の間に生じている。この原因は先にも述べた如く、他外銀進出と中国系の近代銀行設立に伴う公金預金の移しかえと、天津の商業都市としての発展によることなのではないかと考えるが、これらの点の確認は将来の課題としたい。なお、当座預金も一定の残高をこえる(100両

以上) 額については付利されていたと思われる。1915年の検査役報告書によるとその率は2%である。<sup>(9)</sup>

なお、北京支店では1913年において、当座預金75.3万両+60.6万メキシコ・ドル=116.7万北京両(1北京両=純銀547.2グレイン=1.4631メキシコ・ドル)であり、定期預金は276.8万両、これに対し当座貸越7.2万両、貸付25.1万両、計32.3万両にすぎず、天津店よりも大規模な預金吸収店であった。

### III

では、天津店から預金を吸収した上海店は如何なる業務を営んでいたのであろうか。我々は上海

店については正確なバランス・シートを所有していない。同店の元帳は失われているからである。ただ1916年4月25日の支店検査役報告書に1913年についての各勘定科目の数字が示されている。不幸なことにここには馬蹄銀 Sycee を除く現金の数字とダラー・ローンの数字が示されていないし、また数字の日付が科目ごとにことなっている。それは同年の2月28日から10月23日までのばらばらの日付である。しかし、ほかにデータは存在しないので、これによって1913年の上海店の大まかなバランス・シートを再構成して見よう。表四がそれである。この表の各勘定科目は同じ日付のものではないので、正確な貸借対照表ではないが、しかし上海店の営業の大体の姿を知ることには有用であろう。

表四. 香港上海銀行上海支店の貸借対照表, 1913年 (TIs.000)  
Table 4. Reconstructed Balance-Sheet of the Shanghai Branch  
of the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, 1913\*

Overdrawn Current a/c:		Current a/c (16 Oct.):	
Taels (30 Oct.)	12,492	Dollars (\$ 4,007)	2,862
Dollars (28 Feb.)	47	Taels	20,501
Loans (30 Sept.)	4,581	Fixed Deposits (25 May)	11,922
Advances against Shares (31 Oct.)	3,290	Bills Receivable (31 March)	12,834
Bills Purchased (31 Mar)	15,705	London Office Accept. (31 March)	1,748
Holdings of Sycee (30 June)	14,866	Bills for Collection (31 March)	1,252
Bills Receivable (31 March)	12,834	Branches Loans for Collection	
London Office Accept. (31 March)	1,748	(30 Sept.)	5,073
Bills for Collection (31 March)	1,252	Instalment a/c (31 Mar.)	1,334
Branches Loans for Collection			57,526
(30 Sept.)	5,073		14,362
	71,888		71,888

\* This is not in the nature of a precise balance-sheet, because the dates are different for different accounts. This table should be interpreted as giving approximate orders of figures. Moreover, the figures for short loans to native banks, that is, chop loans, are not included here.

(Source) HSBC Archives, *Inspectors' Reports on Shanghai Branch*, 22 October 1915 and 25 April 1916 (London II, Bank History, London Office Box No. 8, London Office Items, Nos. 123 and 124) (hereafter locations of the inspectors' reports are omitted)

表四から明らかなことは、上海店のバランス・シート総額は7188.8万上海両=7626.0万天津両であり、1913年末の天津店バランス・シート総額の10倍以上になることである。

ところで上海店の預金は合計で3528.5万上海両であるが、これに対して資産の側で貸付+当座貸越は、2041.0万上海両となっている。差額の1487.5

万は馬蹄銀の保有1486.6万上海両とほぼ対応している。つまり銀建預金で銀建貸付と銀地金の保有をまかなっているわけであり、これが有名な Even Keel Policy<sup>(12)</sup> の実行を示すものであることはいうまでもない。

ところで、銀建預金3528.5万上海両に対して、銀地金準備1486.6万両だから、預金に対する銀準

備の比率は42.1%にもなる。このように多額の銀準備が保有されていたのは、第一に中国での商業取引の一部の決済は現銀で行なわれ、銀行の対顧客取引も現銀の受渡しを伴うことがあったからである。第二に、HSBCを含む欧米・日本系銀行は中国の輸出商品の集荷、輸送、在庫の金融と欧米・日本からの商品輸入の金融に従事していたわけであるが、輸出商品の主力は茶、絹、綿花であり、この三商品の生産と取引は極めて季節性が強かったという事情がある。すなわち、これら商品の集荷と取引のための資金需要の増大につれて銀行の手許の現銀は減少し、商品が輸出商に売却されて、その代金の銀が商人の手に入るにつれて銀

行への返済が生じ、銀行の手許の現銀はふえる。又中国では四大節とくに旧正月の前に取引の清算が行なわれる。このために銀行の現銀保有は年間に大きく増減する。表五を見ると近代的銀行(外銀と中国通商銀行 Imperial Bank of China)の馬蹄銀保有は、1908年についてみると、1月の9,707千両を最低とし、10月12日19,626千両と二倍にまで増大している。

現銀保有はもちろん利子を生まないので、銀行にとって不利である。そこで、現銀を上海の土着金融機関である銭荘(ヨーロッパ人はこれを native banks と称していた)に対する短期貸付に運用することが行なわれた。これをチョップ・ロー

表五. 上海におけるチョップ・ローン, 1905—8年(メキシコ・ドル建は除く)  
Table 5. The Amounts and Interest Rates of Chop Loans in Shanghai, 1905—8  
(excluding loans in Mexican dollars) (Tls. 000)

End of Month	Loans, All Banks	Of Which Given by							Sycee Holdings of All Banks	Native Interest Rate (%)
		Chartered Bank	HSBC	Species Bank	DAB*	RCB+	Imperial Bank of China	Bque de l'Indo-Chine		
1905										
Jan.	290									
Feb.	2,556									
Mar.	4,040									
Apr.	3,240									
May	6,377									
June	6,615									
July	7,670									
Aug.	11,208									
Sept.	10,255									
Oct.	8,510									
Nov.	8,260									
Dec.	6,900								6,730	
1906										
Jan.	815									
Feb.	2,460									
Mar.	4,300									
Apr.	1,960									
May	6,460									
June	3,550									
July	3,780									
Aug.	7,690									
Sept.	12,450									
Oct.	12,480									
Nov.	14,905									
Dec.	8,200								8,637	

表五. 上海におけるチョップ・ローン, 1905—8年 (メキシコ・ドル建は除く) (つづき)  
 Table 5. The Amounts and Interest Rates of Chop Loans in Shanghai, 1905—8  
 (excluding loans in Mexican dollars) (Tls. 000)

End of Month	Loans, All Banks	Of Which Given by							Sycee Holdings of All Banks	Native Interest Rate (%)
		Chartered Bank	HSBC	Specie	DAB*	RCB+	Imperial Bank of China	Bque de l'Indo-Chine		
1907										
Jan.	2,270									
Feb.	5,041									
Mar.	11,775									
Apr.	9,435									
May	7,300									
June	15,235									
July	15,570									
Aug.	16,310									
Sept.	15,500									
Oct.	8,820									
Nov.	6,980									
Dec.	5,425		605	1,980					9,645	5.75
1908										
Jan.	2,030	90		240	200			1,160	9,707	2.125
Fed.	6,970	420	200	1,450	1,500	40	240	2,170	10,309	3.625
Mar.	13,487	470	2,977	2,070	890	1,190	550	3,750	11,999	8.375
Apr.	16,414	750	2,994	3,260	1,530	1,170	700	4,550	11,930	3.625
May	18,400	920	1,650	3,920	2,050	1,610	300	550	13,510	4.500
June	19,750	1,050	1,170	4,400	2,200	870		5,450	15,100	2.500
July	19,750	890	1,630	4,450	2,500	450	300	5,900	17,120	4.000
Aug.	21,020	890	1,710	4,520	2,500	2,910	500	4,500	16,318	4.000
Sept.	17,780	840	880	4,600	2,500	1,390	500	4,200	16,178	4.000
Oct.	10,100	930	580	1,040	1,580	350	500	2,710	19,626	5.000
Nov.	2,300		190	110	360		200	1,050	18,877	3.250
Dec.	100								17,996	1.500

\*Deutsch-Asiatische Bank + Russo-Chinese Bank

(Source) *The Shanghai Manager's Letter to J.R.M. Smith, Hong Kong, 25 December 1908*

ンと称する (チョップ・ローンの詳細については付録Ⅱを参照せよ)。チョップ・ローンは横浜正金銀行などにとっては、資金運用の重要な方法であったが、HSBCはチョップ・ローンに積極的であったとは思われない。それは、次の数字から明らかである。

(千上海両)

	香港上海銀行		横浜正銀行	
	馬蹄銀保有	チョップ・ローン	馬蹄銀保有	チョップ・ローン
1908年1月末	2,547	—	1,100	240
〃 4月末	9,800	2,994	450	3,260
〃 7月末	9,040	1,630	2,400	4,450
〃 10月末	10,583	580	2,448	1,040

(出所：表五に同じ)

チョップ・ローンは一日又は二日の通知で回収しうるものであったので、現金準備に准ずるものとされていたが、銭荘間で連鎖倒産が生ずるようなパニック時にはもちろん回収不能となった。またチョップ・ローンの残高も著しい季節変動にさらされていたことは、表五に見られるとうりである。それは暦年の年末・年初には0に近く落ち込む。これは春節すなわち旧正月の前にすべての債務の清算が行なわれるという慣習によるものであろう。そして、これと時を同じくして馬蹄銀保有も減少しているが、これも旧正月をむかえるための現銀支出、したがって預金の払戻しによるもの

であろう。ただし、これらの点は今後更に詳しく調べて行くための課題としておきたい。

以上の如く、銀建預金で銀建貸付と現銀保有がまかなわれていたのであるが、金建の取引を代表するものが表四の買入手形1570.5万上海両である。これは、英、米、ドイツ、フランスに対する輸出代金を代表するものであり、1913年3月31日のその内訳は次のとおりであった。<sup>(12)</sup>

ポンド／マルク建	3,974	千上海両
フラン建	11,454	ク
金ドル建	277	ク
計	15,705	ク

これらの輸出手形は、もちろん銀通貨又は銀地金で買取られたのであるが、これらの銀資金はどのようにして調達されたのであろうか。それは次の三つの源泉のいずれかでなければならない。(1)上海支店に割当てられた資本金、(2)天津店・北京店からの借入、(3)ロンドン支店からの借入。この三つの方法のうち最も重要なのは(3)である。ロンドン支店からの借入といっても現金の現送によって借入れるのではないことはいままでもない。それは中国の輸入商品の代価のヨーロッパ、北米又は日本への送金のための電信為替、一覽払銀行為替手形の売却によって現銀を入手し、これの見返りに上海店の対ロンドン店債務が積み増しされるという方法によるものである。電信為替の売却によって生じた対ロンドン店債務は金建なのであるから、それらの売却代金たる現銀はできるだけ速やかに金本位国宛の手形の買取にまわさなければならない。

表四の上海店バランス・シートの資産合計は7188.8万上海両である（資産の真の合計はこれより大きい筈である。チョップ・ローン又はダラー・ローンの数字がここに入っていないからである）。これに対し数字の判明している負債項目の合計は5752.6万にすぎず、資産合計に対して1436.2万上海両の不足が生じている。この金額は上の対他店債務と割当てられた資本金を代表している筈であるが、この数字と買入手形1570.5万両とがほぼ見合っているのは偶然ではないであろう。

ところで、我々は次のような恒等式を考えることができる（割当資本金は捨象する）。

$$\text{預金} + \text{対他店債務} = \text{貸付} + \text{買入手形} + \text{現金}$$

移項して、

$$\text{対他店債務} = (\text{貸付} + \text{買入手形} + \text{現金}) - \text{預金}$$

上海の場合にはこの現金は馬蹄銀の保有である。また貸付の中にはチョップ・ローンが含まれるのであるが、1913年のその額は不明である。対他店債務の中には天津店と北京店への債務が含まれ、それは1913年末に天津店について150.4万天津両＝159.6万上海両、北京店についての額は不明であるが、1913年2月20日の同店の預金は393.7万北京両、同1月31日の貸付＋当座貸越は32.3万北京両である。現銀保有は不明であるが1915年2月20日に82.3万両、メキシコ・ドル13.2万両であり、これが仮に1913年の数字でもあったとすると預金－（貸付＋現銀保有）は265.9万両である（北京店では買入手形は存在しない）。この265.9万北京両は277.9万上海両に等しい。だから天津店、北京店が上海店に貸付けていた金額は計437.5万上海両であるが、これらは銀資産に投資されていたものと思われる。乱暴な仮定であるが、対天津店・北京店債務は表四に示されていないダラー・ローンに金額的に見合っていたと仮定して、これらを捨象しよう。そうすると、

$$\begin{aligned} & (\text{貸付} + \text{買入手形} + \text{現銀保有}) - \text{預金} \\ & = \text{対ロンドン店債務} \end{aligned}$$

となる。この対ロンドン店債務を「上海店資金不足」と呼ぶことにしよう。

表六は1904～14年についての上海店の主要勘定科目の動きを示すものである。この表から上海店の資金不足額を推定して行くこととしよう。ただし、資産の側ではチョップ・ローンが、負債の側では割り当てられた資本金と対天津店・北京店債務が外されているので、資金不足は多分過大評価となる。それと、表六に示されている買入ポンド（手形）は、1904～8年については半年期中の買入総額であって、期末残ではないという問題がある。そこで、買入手形の平均残存期限は4ヵ月であったとしよう。そうすると期中買入額の三分の二が末残になると考えることができる。更に、ポンドを上海両に換算しなければならない。換算はロンドンでの年間平均銀価格を用いて上海両の対ポンド年間平均為替相場を推算するという方法を用いる。結果は表七に示されている。

表六. 香港上海銀行上海支店の預金, 貸出等  
Table 6. Deposits, Loans and Advances &c. of the Shanghai Branch of the HSBC (S. Tls. 000)

Year	Month	Fixed Deposits & Savings Bank	Current Accounts	Over-deafts	Loans & Advances against Shares	Bills Receivable	Sterling Purchases* (£000)	T.T.s drawn by London* (£000)	Sycee held in Shanghai
1904	June	7,358	10,166	3,088	8,450	7,257	3,759	380	
	Dec.	7,390	10,517	3,876	5,781	8,320	3,720	1,214	
1905	June	7,710	10,518	4,634	6,797	13,319	4,560	2,358	2,870
	Dec.	7,141	10,685	4,979	7,468	12,136	4,605	1,622	
1906	June	6,429	9,384	6,170	8,314	12,929	5,033	1,715	4,440
	Dec.	6,363	10,265	5,507	10,306	13,687	4,631	1,164	
1907	June	6,143	10,831	6,594	9,365	15,588	5,381	667	4,820
	Dec.	6,578	10,328	6,883	9,390	12,432	5,687	1,474	
1908	June	7,497	12,968	7,037	9,621	14,052	4,410	859	9,850
	Dec.								
1909	June								12,125
	Dec.								
1910	June								8,825
	Dec.								
1911	June						(S. Tls. 000)		10,644
	Dec.								
1912	June	11,740 a				14,762 c	15,705 d		10,721
	Dec.		21,905 e	9,950 b	11,147 d				
1913	June	11,922 a				12,834 c	13,916 d		14,866
	Dec.		23,363 e	12,492 b	7,871 d				
1914	June	12,569 a				20,240 c	13,959 d		16,710

\*Totals during the half-year for the period, June 1904 to June 1908. But, for the period, June 1912 to June 1914, the figures are the amounts outstanding at the end of the half-year. They also contain bills in French Francs, German Marks and U.S. Dollars.

a. 25 May

b. 30 November

c. 31 March

d. 31 October for Loans and 30 September for Advances against Shares.

e. 16 October

(Source) For years from 1904 to 1908, *Managerial Correspondence from Shanghai to Head Office*, 1908, 20 January and 16 July.

For Years from 1912 to 1914, *Inspectors' Reports on Shanghai Branch*, 22 October 1915 and 25 April 1916.

表七. 香港上海銀行上海支店買入手形期末殘高推定  
Table 7. The Estimated Amounts of Sterling Bills Purchased Outstanding of the Shanghai Branch of the HSBC

Year	Month	Sterling Bills Purchased (S. Tls. 000)	The Exchange Rate of Shanghai Taels Used in Conversion from £ to S. Tls. (£ p. S Tl.)
1904	June	14,869	0.1264
	Dec.	13,537	0.1374
1905	June	17,325	0.1316
	Dec.	15,706	0.1466
1906	June	16,878	0.1491
	Dec.	14,739	0.1571
1907	June	17,747	0.1516
	Dec.	22,730	0.1251
1908	June	18,089	0.1219

(Source) The same as Table 6.

The Sterling exchange rates were computed by using the silver prices in London quoted in William F. Spalding, *Eastern Exchange, Currency and Finance*, 3rd ed., London, 1920, p. 290.

表六と表七を用いて上海店の資金不足状況を見ると次のとおりである。

	(千上海両)		
	買入手形+ 貸付+現銀	定期預金+ 当座預金	資金 不足
1905年6月	34,531	18,228	16,303
1906年6月	36,986	15,813	21,173
1907年6月	39,620	16,974	22,646
1908年6月	40,776	20,465	20,311
1912年*	47,523	33,645	13,878
1913年*	49,145	35,285	13,860

\*年内の様々な日付。表四を見よ。

見られる如く、上海店は恒常的に資金不足のポジションにあったと考えてよいであろう。1913年の資金不足1386.0万上海両は英ポンド換算で略々187.7万ポンドである。(1上海両=標準銀1.1793オンス。年平均値価格標準銀1オンス=27.5625ペンス)。この額がロンドン店の対上海店債権となって現われる筈である。

すでにのべた如く、上海店の対ロンドン店債務が生ずるのは、ロンドン払いの電信為替や銀行為替手形を売却するからである。売却の対価として上海店の受け取った銀貨や馬蹄銀はできるだけ金本位国宛手形の買取に向けられなければならない。しかし、もし上海の対金貨国の国際収支が赤字であれば、金本位国宛手形の買入で対ロンドン店債務を完全にカバーすることはできない。その場合は、受け取った銀を現銀のまま保有するか、金建の国債を購入するか、余剰の現銀をロンドンに向けて輸出し(現銀がロンドンに到着するまでに2カ月かかるから、船積と同時にロンドンで2カ月先物の銀を売らなくてはならない)なくてはならない筈である。

しかし、上海の対外収支は赤字=支払超であったとは思われない。表四によるとHSBC上海店の対他店債務(大部分は対ロンドン店であろう)は1436.2万上海両であり、これに対し買入手形は1570.5万上海両に達していたからである。なお、横浜正金銀行上海支店の1913年通年の売為替5460万両、買為替8660万両であり、3200万両の買越になっている。<sup>(13)</sup>

それでは中国の国際収支は全体としてどのよう

な姿になっていたのであろうか。周知の如く、貿易収支は大幅の赤字であった。1913年の輸入は5億7000万海関両(うち香港からの購入1億7200万), 輸出4億300万両(対香港1億1700万両)であり、赤字は1億6700万両(2520万英ポンド)になる。<sup>(14)</sup>しかし、これは海関だけの入超であり、この外に常関と称せられる沿岸輸出入貿易などの通関は出超であったと見られるし、<sup>(15)</sup> 海外華僑からの送金はモースH.B.Morseの1904年についての推定によれば年7300万海関両に達していた。<sup>(16)</sup> そして1914年の厦門、仙頭、広州、香港において支払われた華僑送金為替年額は5700万ドル(=3660万海関両)という調査もある。<sup>(17)</sup> この外にモースによると内陸国境貿易の出超、在華外国公館・軍隊経費、外国船経費、外国人旅行者、布教者の支出が5550万海関両、鉄道、鉱山開発費用2700万両などがあり、1904年の経常収支は小幅の黒字であった。<sup>(18)</sup> 更に総合国際収支尻ともいべき現銀輸出入の収支は、1909~13年で輸入2億6974万海関両、輸出1億3531万海関両で、1億3443万両の流入超であった。<sup>(19)</sup> そして、1913年では3600万両の流入超である。<sup>(20)</sup> もっともこれは香港を外した数字であり、香港は多分現銀流出超である。<sup>(21)</sup> その上に香港を含めた金の収支も流出超である。<sup>(22)</sup>

更に上海における外国為替の需給は經常取引のみによってきまるものではなかった。すなわち、「現時、支那各貿易港をみるに為替の売買はその商取引の必要額に数倍するものにして、直接必要額以上の売買の目的はあるいは裁定に出ずるにあり、あるいは投機に出ずるあり、あるいは資金調達に出ずるあり、…資金調達を目的とする為替売買につきて見るに、各銀行業者がその金融上短資を必要とするときは…為替の直物を買って、先物買の予約をなし、この僅々数日の予約期間において、その直物を買ってえたる代金を利用することすこぶる多し。」<sup>(23)</sup> さて、この資金調達の目的での直物売:先物買は銀行の為替ポジションを変化させるものではなく、またその相手方の銀行の直物買・先物売もポジションを変えるものではない。問題は上の文章内の投機的売買である。すなわち、手許に現銀の余剰を有する銀行は、他行より僅かに高い相場をオファーすることによって、ロンドン、その他金本位国あての手形を容易に入手しえ

たであろう。

さて、上海店がこのようにして買入れた手形がロンドン宛であったとしよう（事実はフランス宛の手形の方が多かったと思われるが）。これはロンドン店では負債と資産の両側に取立為替bills receivableとして現われる。他方、売却したロンドン宛電信為替等の残高は、ロンドン店の他店宛債権として示される。これ故に我々は次にロンドン店のバランス・シートを見なければならない。

## IV

HSBCロンドン支店のバランス・シートとしては1911年9月30日のそれがほぼ完全な形で存在する。表八がそれである。この表をクロス・レファレンスの基礎として用いよう。なぜならば1913年についてのバランス・シートはより不完全なものしか得られないからである。すなわち、1917年12月31日の支店検査役報告の中には1913年までさか

表八. 香港上海銀行ロンドン支店の貸借対照表, 1911年 9月30日

Table 8. The Balance-Sheet of the London Office of the HSBC, 30 September 1911 (£ 000)

Cash in Hand	3	Fixed Deposits	4,374
Balances w. Other Banks	23	Call & Short Notice Dep.	93
Securities: London Office a/c (31 Oct.)	710	Current Accounts	3,840
Sundry Loans to Constituents	180	Bills Discounted	31
Overdrawn Current Accounts	159	Bills Receivable	9,406
Short Loans to Brokers	135	Branch Drawings on London Country & Westminster Bank	230
Bills Discounted	31	Branch Drawings on London Office	197
Bills Receivable		London Office Acceptances	915
Discounted Outstanding <sup>x</sup>	3,849	Suspense a/c	32
In Hand	4,832	Marginal Deposits	4
In Hand and out for Acceptance	725		
	9,406		
Bills Purchased and Remitted to Branches	2,751		
London Office Acceptances	915		
Branch Account Overdrafts	3,875		
Provision for Bad Debts a/c	3		
Extended Bills	73		
	18,394		
	858		
	19,122		19,122

(Source) HSBC Archives, *Inspector's Report on London Office*, 6 November 1911

× これは割引市場に割引に出された手形である。

のぼるロンドン店の業務の数字が示されている。しかし、その大部分は年間取引総額であって、残高ではない。これ故に何らかの方法で総額から残高を推定しなければならない。といっても、そのための正確な方法は存在しない。例えば取立為替bills receivableの1913年の取引総額は4,950万ポンドとされている。仮に手形の平均残存期限は3ヵ月であるとすれば、残高は49,500,000ポンド÷4=12,375,000ポンドとすることができる。1911

年の取立為替は940.6万ポンド（表八を見よ）であるから、1913年の1237.5万ポンドも、当たらずといえども遠からずという所であろう。この取立為替と年間の電信為替によるロンドン店の受取の合計と支払の合計は1913年について次のとうりであった。

	(万ポンド)
ロンドン支店に送付された手形 Bills Remitted to L. O.	4,950.0
電信為替による送金受取 T.T. Received	947.6
合 計	5,897.6
顧客勘定のロンドン・カウンティー・アンド・ウェストミンスター	
銀行宛一覧後払手形 Sundry a/c After Sight Drafts on London County and Westminster Bank	271.8
支店勘定のロンドン・カウンティー・アンド・ウェストミンスター	
銀行宛一覧後払手形 Branch a/c After Sight Drafts on London County and Westminster Bank	87.9
顧客勘定のロンドン支店宛一覧後払手形 Sundry a/c After Sight Drafts on L.O.	349.3
支店勘定のロンドン支店宛一覧後払手形 Branch a/c After Sight Drafts on L.O.	23.2
ロンドン支店払の一覧払手形振出 Demand Drawings on L.O.	1,049.5
ロンドン支店払の電信為替 T.T. Drawings on L.O.	3,310.0
ロンドン支店買入手形 Bills Purchased by L.O.	990.0
合 計	6,081.7

つまりロンドン店の立替払いと、ロンドン店が買入れ、代金取立のためにその支払地の支店に送付した手形、つまりロンドン店の他店に対する債権を構成する金額が6081.7万ポンドである。これに対し他店のロンドン店への債権となる金額が5897.6万ポンド、差引きで184.1万ポンドだけロンドン店の他店への貸越残がふえた勘定になる。

ところで上記の数字はいずれも年間総額であつて、残高ではない。手形については、平均残存期限3カ月として処理をすることとしよう。しかし、電信為替と要求払手形（一覧払手形）については残高はきわめて小さいであろうから、これは無視することとしよう。更に当座預金の数字が1917年の検査役報告には示されていないので、1913

表九。香港上海銀行ロンドン支店推定貸借対照表、1913年2月28日（£000）

Table 9. The Estimated Balance-Sheet of the London Office of the HSBC, 28 February 1913

Bills Receivable*	12,375	Fixed Deposits	4,048
Sundry a/c Drafts on London County & Westminster Bank*	680	Current Accounts (31 Dec.)	5,472
Sundry a/c Drafts on London Office*	873	Bills Receivable*	12,375
Bills Purchased & Remitted to Branches*	2,475	Sundry a/c Drafts on London County & Westminster Bank*	680
Bills for Collection Branch Accounts with London Office (31 Dec.)	619 6,559	Branch a/c Drafts on London County & Westminster Bank*	220
Cash	?	Sundry a/c Drafts on London Office*	873
Balances with Other Banks	?	Branch a/c Drafts on London Office*	58
Securities+	710	Bills for Collection	619
Loans	?		
Overdrawn Current Accounts	?		
	24,291		
	54		
	24,345		24,345

(Source) HSBC Archives, *Inspector's Report on London Office*, 31 Dec. 1917

\*The figures in the original source were totals for the year. Here, they are divided by four to obtain the amounts outstanding, on the supposition that the average period to maturity of the bills was three months.

+This figure is the same as that of the securities investment on London Office account on 31 October 1911.

年12月31日の香港上海銀行全体のバランス・シートによる金通貨建当座預金584.5万ポンドから、ハンブルグ店、リヨン店、神戸店、長崎店、横浜店の当座預金の合計37.3万ポンドを差引いて547.2万ポンドとした。定期預金の数字は1917年の検査役報告に明示されていて、1913年について404.8万ポンドである。ただし、第八表の各項目は2月28日付のものであるが、全体のバランス・シートは12月31日付であって、同一時点の数字ではない。

更に証券投資の数字は、表七、すなわち1911年の数字である71.0万ポンドをそのまま用いた。現金、他行預り金、貸付、当座貸越の数字は推定のしようがなかったため、空欄のままにした。しかし、これらのすべてが小さな項目である。当座貸越は、1911年をとると、職員や個人に対するものが大半で、商社のゴム株、H S B C株などを担保とする借越もないわけではなかったが、非常に多いということではなかった。現金は、H S B Cが卸売銀行であることを反映して極めて少なかった。1911年にそれは34ポンドにすぎない。他行預け金も2.3万ポンドで低水準である。その代わりに、有価証券担保での借入が現金準備を補充するものとして重要だったのである。すなわち、1911年の検査役報告によると、「ロンドン店は銀行〔H S B Cのこと〕の一流の流動性ある証券の約100万ポンドを、必要のさいに市場から得られる短期ローンのカバーのための流動資産として利用する。すなわち、5%〔15%の誤り〕の-marginで85万ポンドまでの借入のために十分である。』<sup>(25)</sup> この外にロンドン・カウンティー・アンド・ウエストミンスター銀行から預託証券担保で75万ポンドまでを前日予告コールとして取入れることができる。<sup>(26)</sup> 顧客への貸付 Sundry Loans to Constituentsも1911年に18.0万ポンドと小さい。だから、これらの項目の1913年における数字をすべて合計しても多分は表九の不突合=5.4万ポンドと大差はないと思われる。他方、貸方の方で Suspense Account や Marginal Deposits などマイナーな項目が抜けている。だから、1913年にも H S B C ロンドン店の不突合は、プラスであった可能性が高い。

ところで、1913年のバランス・シートと1911年のそれを比べると勘定科目に多少のちがいがあ

その最大のものは1913年には存在しないロンドン店引受 London Office Acceptances が1911年のバランス・シートに見えることである。しかし、これは1913年の Sundry Drafts on London と同じものである。<sup>(26)</sup> また1913年のロンドン店における支店勘定 Branch Accounts with London Office と1911年の Branch Account Overdrafts が同じものであることは明らかであろう。

最後に1913年末の H S B C 全体のバランス・シートを表十として掲げておくこととする。原表は香港ドル建であるので、ここでは£ 1 = HK \$ 10.217の相場で換算した。このレートは同行が1913年バランス・シートで換算のために用いたレートである。これと表九を比較すると、H S B C ロンドン支店の全体の中での比重がいかに高かったかが分る。ただし表九は行内の本支店勘定を含んでいるので、これを差引くためにロンドン支店の定期預金+当座預金の数字をとってみると、それは989.3万ポンドで、全行資産・負債総額4005.2万ポンドの四分の一に担当する。

表十. 香港上海銀行の貸借対照表, 1913年12月31日  
Table 10. The Balance-Sheet of the HSBC, 31 Dec. 1913 (£ 000)

Cash	4,853	Paid-up Capital	1,500
Coin Lodged with the Hong Kong Government against authorized and/or excess note circulation	1,468	Sterling Reserve Fund	1,500
Bullion in Hand and in Transit	524	Silver Reserve Fund	1,745
Indian Government Rupee Paper	134	Marine Insurance Account	24
Colonial and Other Securities	1,299	Notes in Circulation	2,431
Sterling Reserve Fund Invested	1,500	Current Accounts	
Bills Discounted, Loans and Credits	13,868	Silver	12,013
Bills Receivable	14,485	Gold	5,845
Acceptances, per contra	1,224	Fixed Deposits	
Bank Premises	665	Silver	7,110
		Gold	4,219
		Bills Payable	
		Call Loans & Short Sight	
		Drawings on London Office against Bills Receivable and Bullion Shipments	929
		Drafts on London Bankers	1,023
		Acceptances, on account of	
		Constituents	1,224
		Profit and Loss	526
	40,052		40,052

(Source) *The Economist, Banking Number*, May 23, 1914, p.1256

Note: The original Balance-sheet was in Hong Kong dollars. The figures in this table were converted in pound sterling, using the exchange rate of £ 1 = HK \$ 10.217, except the paid-up capital, sterling reserve fund, silver reserve fund and coin lodge with the Hong Kong government, where the exchange rate used was £ 1 = HK \$ 10.0.

## V

では、1913年におけるHSBCの各店舗間での資金過不足の関係はどうなっていたであろうか。表十一に1913年における店舗別の資金過不足の推定を示すこととする。ただし、香港本店、ニューヨーク店、サン・フランシスコ店についてはデータがえられない。またデータのえられる店舗についてもそれは大まかな推定にすぎない。特に一部の支店、代理店については借方の現金保有が不明である。これらの店舗については資金余剰が過大に、または資金不足が過少に出てくる。しかし、これは避けられないバイアスである。資料の限界を念頭において表十一を見て行く外はない。また各店舗別のバランス・シートをとるに当たって、勘定科目ごとに日付が異なっていることが多い。これも表十一に誤差をもたらすことになる。この種の数字は大きな季節変動をこうむるからである。しかし、外にデータもないことなので、これらの

難点は無視しておくほかはない。資金過不足の推定は各店舗別のバランス・シートを推定することによって行なわれる。バランス・シートのためのデータは検査役報告である。そこには1913年について各店の預金、貸出の数字が示されているからである。そして、数字はすべて1913年の平均為替相場によって英ポンドに転換する。

表十一は各店舗における現地預金を資金供給源と考え、当座貸越+貸付+買入手形を運用資金額とする。もし預金<貸越+貸付+買入手形となっているならば、その差は本店からの資本金の割当か電信為替、支払手形の売却によって埋められたのでなければならない。電信為替・支払手形の顧客への売却は、輸入代金等の他地への送金を示すものであり、送金先はロンドンが主である。これらの売却は、ロンドン店における当該支店の勘定の借記を引きおこすであろう。なお又、輸入業者が輸入商品を担保として資金を借り入れ、この借入資金でロンドン宛電信為替を買入れることがあ

表十一. 香港上海銀行各店舖の資金過不足, 1913年

Table 11. Financial Surpluses and Deficits of Various Offices of the HSBC in 1913 (£ 000)

Place name	Current a/c Crs.	Fixed & Savings Deposits, Deposits, at Call	Sub-Total (1)	Cash	Loans and Over-drafts	Bills Purchased	Sub-Total (2)	Surpluses or Deficits (1)-(2)
London**	5,472	4,048	9,520	*	*	2,475	2,475	7,045
Hamburg	19	42	61	18	28	767	813	- 752
Lyons	44	58	102			176	176	- 74
Manila	433	270	703		823	93	916	- 213
Iloilo	40	8	48		364	15	379	- 331
廣州	53	121	252		15		15	237
廈門	53	56	109		84		84	25
福州	70	47	117		50		50	67
虹口	98	123	221		7		7	214
上海	3,163	1,614	4,777	2,013+	2,779	2,126	6,918	-2,141
漢口	185	138	323		444		444	- 121
北京	165	392	557		46		46	511
天津	307	435	742	312	246	0	558	184
神戶#	132	132	264			888	888	- 624
長崎#	14	59	73	14	28	9	51	22
橫濱#	190	481	671	122	594	2,074	2,790	-2,119
Saigon#	107	51	158	283	217	188	688	- 530
Bangkok	460	183	643	83	184	167	434	209
Batavia	61	11	72	34	76	338	448	- 376
Sourabaya	157	97	255	92	154		246	9
Singapore	576	357	933	320	729	231	1,280	- 347
Johore	104	2	106	5	2		7	99
Malacca	147	13	160	15	98		114	46
Kuala Lumpur	98	18	116	19	128		147	- 31
Ipoh	77	25	102	13	54		67	35
Penang	221	202	423	49	244		293	130
Rangoon	100	124	224	43	523	89	655	- 431
Calcutta	338	352	690	97	511	175	783	- 93
Bombay	332	313	645	131	1,236	80	1,447	- 802
Colombo	234	106	340		156	59	215	125
Total	13,528	9,878	23,406	3,663	9,820	9,950	23,433	- 27

\* Cash in hand and balances with other banks as well as loans and overdrafts at the London Office did not amount to much, as can be seen from Table 9.

\*\* The London Office held securities on own account, the figures for which must be added to Sub-total (2). Thus, the real financial surplus of the London Office is less than the £7,355,000 indicated in this table. Probably it was £6,645,000, if we suppose that these securities amounted to £710,000.

+ Stock of sycee held by the Shanghai Branch, i.e. this figure does not include balances with other banks and notes and coin in hand.

# Various dates in 1914 (all dates are before August 1914)

(Source) HSBC Archives, *Inspectors' Reports*

りうる。つまり、ある土地の輸入がふえればふえるほど、この銀行の貸越・貸付がふえ、同時に電信為替の売却がふえるのである。他方、買入手形の増はその土地の輸出の増を示すものである。これによる資金不足は、一定のタイム・ラグをおいてロンドン店などにおける勘定の貸記をもたらす。しかし、それは手形の満期が到来した後のことである。輸出がふえ、買入手形がふえて行くとしよう。手形の売手が代金を自らの預金口座に入金しないで金銀による支払を求めるとき、あるいは他の銀行にそれを預入する時には、H S B Cの店舗の手元金銀がへってしまう。最終的にはロンドンにおいて金又は銀を買いそれを海外に現送しなければならなくなるであろう。

これらのことを前提として表十一では、現地預金と貸越+貸付+買入手形との関係を見たわけである。なお、発券による資金調達も考慮すべきであるが、発券は香港と上海以外の店舗では大きくはない。そこで、これは考慮の外においた。

表十一から分ることは、金本位国以外の支店・代理店における現地預金は当座預金が765.7万ポンド、定期・貯蓄預金等が505.8万ポンド、合計1271.5万ポンドに達していることである。なお、これを表十の全行バランス・シートの銀建預金と比べると、次のとうりである（単位万ポンド）。

	全 行	表十一所収店 (除、金本位国)
当座預金（銀）	1201.3	765.7
定期預金（々）	711.0	505.8

かなり大きな差が存在する。表十一は香港本店、サン・フランシスコ店、ニューヨーク店を含んでいないが、在米の店舗は預金を受入れていないので、この差はすべて香港本店に帰属することになる。とすると、本店の営業規模は極めて大きかったことになる。上の差額は当座預金で435.6万ポンド、定期預金で205.2万ポンド、計640.8万ポンドになる。その上に1913年の発券は表十によると243.1万ポンドになっている。

資産の側ではどうであろうか。全行の数字と表十一所収店の数字の合計を突き合わせてみよう。このさいはロンドン店を含めた数字で比較する（単位万ポンド）。

	全 行	表十一所収店
--	-----	--------

現 金	485.3	366.3
貸付・貸越	1386.8	982.0
買入手形*	1253.3	995.0

（\*全行についてはBills ReceivableからBills Payableを差引いた数字）

現金については全行と表十一合計の差は、119.0万ポンド、貸付・貸越は404.8万、買入手形は258.3万である。

そこで香港本店と在米二店を合計したものの資金過不足状況は次のとうりになる。

預 金	640.8	々
発 券	243.1	々
計	883.9	々
現 金	119.0	々
貸越・貸付	404.8	々
買入手形	258.3	々
計	782.1	々

つまり、101.8万ポンドの資金余剰のポジションである。

最後に本稿の主題であるH S B C店舗間の資金の流れの状態を見ると、ロンドン店の他店に対する貸越がきわ立って大きい。借越店の方では、上海と横浜が200万ポンドを上回って群を抜いており、ついで50万ポンド以上の借越をもつものはハンプルク（75.2万）、神戸（62.4万）、サイゴン（53.0万）、ボンベイ（80.2万）となつて、これにつぐのがラングーン（43.1万）、バタヴィア（37.6万）、シンガポール（34.7万）である。

これらの数字は、いうまでもなく各地の經常取引の収支の反映するものであるが、それだけではなくH S B Cの対東アジア貿易の金融におけるシェアによっても影響される。更に又、例えば日本における如く、外銀は輸入の金融、正金銀行は輸出の金融というような一種のすみ分けの関係があると、これもH S B Cの資金過不足に影響を与える。すなわち、輸入代金支払のためのヨーロッパ宛為替売却により、H S B C在日支店は対ロンドン店借越、その反面に手元に現金、他行預け金の累積という状況になる。もちろん、それが一定限度をこえれば、ロンドン店借越を減少させる目的で、日本でポンド為替を買い（その多くは在外正貨引当で日銀・正金の売り出すものである）、ロ

ンドンに送金することになる。

さて、HSBCの英国の東アジア貿易の金融におけるシェアについては、1911年11月6日付のロ

ンドン店についての検査役報告に表十二の数字が示されている。

表十二. 英国の対東アジア諸国輸出とHSBCによるファイナンスのシェア。  
Table 12. The Share of HSBC in the Financing of British Exports to the East  
(£000)

Years	1903	1905	1910
British Exports to:			
India	34,470	42,996	46,000
Ceylon	1,440	1,336	2,300
China	6,740	13,136	9,200
Japan	4,591	9,661	10,100
Straits	3,125	3,264	4,100
Java	2,012	3,000	3,400
Hong Kong	2,719	3,716	3,600
Philippines	1,840	2,100	1,100
Total (A)	56,937	79,241	79,800
Financing by HSBC:			
Purchase of D/P Bills on an Interest Basis	6,468	9,374	8,875
Drafts on London & County Bank	1,716	1,068	695
Drafts on Demand	6,970	10,626	9,378
Telegraphic Transfers	13,597	21,329	22,563
Total (B)	28,571	42,397	41,510
(B) / (A) × 100	50.2	53.5	52.0

(Source) HSBC Archives, *Inspector's Report on London Office*, 6 November 1911, p.17

この表のシェアは過大評価であると思われる。一つは、この検査役報告も次のよう認めていることである。「もちろん、これらの数字は、厳密には貿易と商業には分類されえない色々の項目での東方からの送金も含んでいる。」<sup>(27)</sup> すなわち、英国対外投資の利子・配当の送金、同投資の回収、個人送金などであろう。第二に、ドイツなどの対アジア輸出の代金の取扱があるであろう。とはいえ、これらを考慮しても、HSBCのシェアが他行に比べて群を抜いて高かったであろうことは推定しうる。

なおこれに関連して、表十二に見られるように利付手形によるファイナンスが著しく少なくなっていることも目を引く点である。これについて検査役報告は次のように言う。「輸出業者が利付ベースでの荷為替手形引き当てに東方に対して手形を振出すという旧来のシステムよりは、ロンドン市場で金融をつける方が安いとしていることは明らかである。…もし我々が英国と大陸からの輸出のファイナンスのシェアを輸出者との直接取引に

よって増大させることができる、又はそうしたいと望むならば、我々は色々な形でのロンドンの引受の便宜を拡張しなければならないと思われる。」<sup>(28)</sup>

そして1911年9月30日におけるロンドン店の供与する引受枠は次のとおりであったことを明らかにしている。<sup>(29)</sup>

ロンドン (23社)	£892,500
ニューヨーク (6社)	£790,000
日本 (11社)	£184,100
その他支店・代理店	0

この外にアジア諸国の輸出のファイナンスにおけるHSBCのシェアもとらなければならない筈である。アジア諸国の対英輸出に対するロンドン店の取立為替 Bills Receivable の比率をとると表十三のとうりである。この取立為替はHSBCの他店から代金取立のためにロンドン店に回送された手形であるから、主としてアジアで買入れたロンドン宛手形である。

表十三. 東アジア諸国の対英輸出のファイナンスにおけるHSBCのシェア

Table 13. The Share of HSBC in the Financing of Exports from Asian Countries to the U.K.  
(£000)

Years	1903	1905	1910
British Imports from:			
India	32,305	36,062	42,852
Ceylon	4,354	4,478	5,984
China	2,679	2,450	5,530
Japan	2,276	1,972	4,327
Straits	5,893	6,836	13,093
Hong Kong	583	386	644
Total (A)	48,090	52,184	72,430
London Office's Bills Receivable-Yearly Totals (B)	35,217	35,938	44,465
(B) / (A) × 100	73.2	68.9	61.4
British Imports from Asia (C)	51,100	56,800	79,500
(B) / (C) × 100	68.9	63.3	55.9

(Source) British imports India, Ceylon, China, Japan, Straits and Hong Kong: Page, William (ed.), *Commerce and Industry*, London, 1919, Table No.36

British imports from Asia: Mitchell, B.R. and Deane Phyllis, *Abstract of British Historical Statistics*, Cambridge, 1962, p.319

Bills Receivable of the London Office: HSBC Archives, *Inspector's Report on London Office*, 6 November 1911, p.12

表十三によるとHSBCはアジア諸国の対英輸出のファイナンスにおいて1903年68.9%, 1910年55.9%と支配的な地位を占めていたが, その地位は次第に他行によって浸食されつつあったように見える。しかし, この比率も過大評価であろう。HSBCはアジア諸国の対フランス, 対ドイツ, 対米国の輸出のファイナンスにもたずさわっていた筈だからである。そこで表十四において, アジアの主要諸国輸出, 輸入の総額をとり, そこでの

HSBCのシェアを推定してみよう。見られるように東アジア諸国の輸入におけるHSBCのシェアは1903年11.7%→1910年12.4%と推移し, 輸出におけるシェアは同じく, 13.2%→11.6%である。もっとも国際取引は物的商品の取引に限られるものではないから, このシェアも過大評価であるが, 一応はこの数字でHSBCが占めていた地位を判定しうるであろう。

表十四. 東アジア諸国の輸出入のファイナンスにおけるHSBCのシェア

Table 14. The Share of HSBC in the Financing of Foreign Trade of Asian Countries  
(£m.)

Years	1903	1905	1910
Imports to:			
China	44.3	68.0	62.4
India	66.5	80.3	94.5
Indochina	8.1	10.1	9.5
Dutch East Indies	14.5	16.8	26.8
Japan	33.5	51.4	53.3
Korea	1.8	3.4	4.1
Philippines	7.0	6.2	10.2
Sarawak	5.9	5.9	6.8
Ceylon	6.7	7.2	10.0
British North Borneo	3.2	2.8	3.8
Straits Settlements	45.5	38.7	42.5
Taiwan	3.9	5.0	5.4
Siam	3.9	4.7	4.8
Total (A)	244.8	300.5	334.1

表十四. 東アジア諸国の輸出入のファイナンスにおける HSBC のシェア (つづき)  
Table 14. The Share of HSBC in the Financing of Foreign Trade of Asian Countries

Years	(£m.)		
	1903	1905	1910
Exports from:			
China	29.0	34.7	51.4
India	105.9	112.3	144.3
Indochina	4.8	6.7	11.5
Dutch East Indies	22.5	25.5	37.3
Japan	30.8	34.3	51.4
Korea	1.0	0.8	2.0
Philippines	6.7	6.9	8.3
Sarawak	7.5	7.5	8.2
Ceylon	6.8	6.8	11.1
British North Borneo	4.2	4.5	4.6
Straits Settlements	37.9	33.0	37.8
Taiwan	3.5	6.1	7.8
Siam	5.6	8.2	8.4
Total (B)	266.2	287.3	384.1
Purchase of D/P Bills on an Interest Basis plus			
Drafts on London & County Bank plus Drafts on			
Demand plus Telegraphic Transfers on London (C)	28.6	42.4	41.5
(C) / (A) × 100	11.7	14.1	12.4
London Office's Bills Receivable-Yearly Totals (D)	35.2	35.9	44.5
(D) / (B) × 100	13.2	12.5	11.6

(Source) Exports and Imports of Asian Countries: Mitchell, B.R., *International Historical Statistics-Africa and Asia*, London, 1982, pp.445-8

Rows (C) and (D) :See Table 14 and 15.

## VI

本論文によって明らかになったことは、HSBCのロンドン支店が大量の預金を取り入れて、それを東アジアの各店舗に貸付けていたこと、しかし東アジアの各店も相当に大量の現地預金を受入れて、現地貸付と現金準備の保有に運用していたという姿である。更に北京と天津の店舗が中国政府や中国要人の預金を受入れ、これを上海店の営業資金として貸付けるという流れも副次的なものとして存在した。同じくマレーシアではペナン、マラッカなどマレー半島の店舗が預金を吸収してシンガポール店に貸付けるという姿も見られた。いうまでもなく、マレーはゴムと錫の二つの産業で急速な成長をとげつつあったのである。

全体として、東アジアの経済成長に伴う東アジア↔ヨーロッパ貿易の伸長と東アジア自体の地

域内での貿易の伸長が、HSBCのアジア所在店舗のロンドン支店からの借入れをふやして行くという状況が見られる。つまり、国際銀行による英国資金の取り入れは、国際貿易の成長が円滑に実現するための手段だったのである。

本稿は1913年という特定の時点でのHSBCの活動の分析であり、ある程度の時間の流れに沿ったHSBCの業務の伸縮の分析、したがって経済成長と景気変動に伴う業務の変化の分析によって補完されなければならない。これによつてはじめて世界的な景気の伝播の実相が明らかにされるからである。しかし、1913年におけるHSBCの営業の実態が明らかになったことは、このような時系列を追った分析のための重要な礎石であると考えられる。

## 付録 I

## 1915～6年のH S B C上海店

1915年10月22日と1916年4月25日の支店検査役報告書には上海店の業務内容が詳しく示されている。これは大戦勃発後の数字であるが、以前の状況を知るためにも有用である。

## 1. 現金 Cash (1915年6月30日)

これはほとんどが馬蹄銀(元宝銀)から成り、2893.3万上海両であった。ところで上海両=純銀523.6グレイン=標準銀1.1793オンスである。ここに標準銀というのは純分925/1,000の銀のことである。1915年のロンドン銀価格の年平均は、標準銀1オンス当り23.6875ペンスなので、1上海両=0.1164英ポンドである。だから上の893.3万上海両=104.0万ポンドである。

2. メキシコ・ドル買入勘定 Mexican Dollar Purchase Account (6月30日) 162.4万両 (=25.0万ポンド) うち65.1万両は本店と他支店の勘定での買入である。

3. 金買入勘定 Gold Purchase Account (6月30日) £5,586である。これは3.6万両でしかないが、大部分はソヴァレン貨である。

4. 取立為替 Bills Receivable (3月31日) 1884.8万両 うち、英ポンド建1674.3万両、両建は25.2万両、円建13.7万両、ルピー建171.6万両である。

すでに述べた如く Bills Receivable とはH S B Cの他店が送ってきた取立手形である。そしてその額は次のように推移した(各年3月31日)。

1912年 1476.2万両  
1913年 1283.4 ♪  
1914年 2024.0 ♪

5. ロンドン店引受手形 London Office Acceptance (3月31日) 258.3万両

この額は次のように推移した(同上)。

1912年 606.3万両  
1913年 174.8 ♪  
1914年 346.9 ♪

いうまでもなく、これは英国等の対中国輸出企業がH S B Cロンドン店あてに手形を振出し、ロンドン店引受後にそれをロンドンで割引いてファイナンスをつ

けるものである。輸出荷物のドキュメントはH S B C上海店に送られ、輸入者はトラスト・レシートを差入れてドキュメントを受取ることになる。

6. 取立手形 Bills for Collection (3月31日) 222.6万両

次のように推移した(同上)。

1912年 174.9万両  
1913年 125.2 ♪  
1914年 167.0 ♪

7. 定期預金 Fixed Deposits (5月25日) 1057.9万両 次のように推移した(各年5月25日)。

1912年 1174.0万両  
1913年 1192.2 ♪  
1914年 1256.9 ♪

利率は3ヵ月物2%から、12ヵ月物5%までの幅があるが、1915年の1057.9万両のうち813.2万両は12ヵ月4%利付である。預金者の大部分はヨーロッパ人であると思われる。<sup>(30)</sup>

8. 要求払預金 Deposits at Call (3月31日) 27.0万両

9. 当座預金 Current Accounts (10月16日)

a. 両建 1936.2万両

口座数は3668口に達する。各年10月16日の数字は、

1912年 1958.7万両  
1913年 2050.1 ♪  
1914年 1712.2 ♪

b. メキシコ・ドル建 573.1万ドル

口座数3,860口。同上

1912年 324.5万ドル  
1913年 400.7 ♪  
1914年 634.2 ♪

メキシコ・ドルは銀純分374グレインとされている。そして上海両のそれは523.6グレインであるから、M\$ 1 = Tl. 0.7143の筈であるが、H S B CではしばしばM\$ 1 = Tl. 0.74の換算率を用いている。事実、上海銭市墨銀相場は、1913年に最高0.765両、最低0.729両で銀純分の比を大きく上回っている。<sup>(31)</sup>

10. 貯蓄預金 Savings Bank (11月9日)

a. 両建 12.2万両

口座412口

b. メキシコ・ドル建 215.3万ドル

口座6230口。

これら貯蓄預金の利子は月中最低残高に対し 3 ½ %、一口の最高額は5,000ドルであった。

11. 当座貸越 Overdrawn Current Accounts (10月30日)

a. 両建。 1336.8万両。各年10月30日の数字は、

1912年 995.0万両

1913年 1249.2 〆

1914年 1454.5 〆

1915年10月15日現在で当座貸越になっている企業49社のリストが示されているが、その貸越総額は1,240,000両であり、この外に A.K.& Co. の中国地方債担保での140,000両の貸越がある。この50社の中には中国人又は中国商社は皆無である。ただし4社の株式会社(製粉、不動産、電力および製華の四業種)は欧米系なのか中国系なのか、名前だけでは不明である。その他はすべて欧米系である。<sup>(32)</sup>

また取立為替についての債務者は1915年3月31日に170社1884.8万両であるが、その内の40社513.9万両があまりにされている。この中で中国系は2社、債務35.6万両にすぎない。<sup>(33)</sup>

このようにHSBC上海店では現地人企業への与信が殆ど行なわれていない。後に見るチョップ・ローン(銭荘へのコール貸付)がほとんど唯一の現地企業貸付である。これについては付録Ⅱで見ることとする。現地企業への直接の与信がない点が横浜店との大きなちがいである。また担保別に見ると、当座貸越の内訳は次のとおりである。

不動産 (40口)	547.2万両
株式 (200口)	312.3 〆
保証書 Letters of Guarantee (20口)	118.9 〆
輸入商品	81.7 〆
輸出商品	76.2 〆
営業用在庫 stock in trade	63.8 〆
無担保	59.2 〆
その他	77.5 〆
計	1336.8 〆

不動産抵当は40口、株式抵当は200口である。<sup>(34)</sup>

b. メキシコ・ドル建 22.4万ドル

140口から成り、多くはキリスト教伝導師関係の無担保貸付である。同上

1912年 6.6万ドル

1913年 15.6 〆

1914年 19.0 〆

12. 買入手形 Bills Purchased Progressive Ledgers

(3月31日) 1395.9万両。各年3月31日の数字は、

1913年 1570.5 〆

1914年 1391.6 〆

これらは輸出手形の買取であるが、通貨別では次のようである。<sup>(35)</sup>

(万両)

	1913年	1914年
ポンド建		
(含マルク建)	397.4	399.5
フランス・フラン建	1145.4	975.3
アメリカ・ドル建	27.7	16.8

このうちフラン建が多いのは上海からフランスへの生絹輸出を反映しているのであろう。

13. 貸付 Loans (9月30日) 503.5万両。各年9月30日の数字は、

1912年 831.5万両

1913年 458.1 〆

1914年 945.6 〆

1915年における貸付の担保別内訳は次のとおりであった。<sup>(36)</sup>

中国政府貸付	210.9万両
輸出商品担保	125.6 〆
輸入商品 〆	83.8 〆
不動産担保	46.0 〆
アヘン 〆	17.7 〆
株式 〆	10.4 〆
その他	0.7 〆
無担保	8.4 〆
	<u>503.5 〆</u>

この中国政府貸付210.9万両のうち199.2万両は British & Chinese Corporation Limited への貸付であり、1914年3月31日に契約の締結された「中国政府5%利付南京一湖南鉄道債」800万ポンドの起債に関係して貸付けられたものである。すなわち、上記株式会社は中

国政府にこの鉄道の測量に要する経費を貸付けることにした。更に200万庫平両（1庫平両＝純銀573.9グレイン）を中国政府に貸付けて安徽省鉄道の工事を再開させ、また萍郷―株州鉄道（江西省と湖南省を結ぶ）会社を発足させようとした。HSBCのロンドン店はこの貸付額に見合う British & Chinese Corporation の要求払手形を保有している。<sup>(37)</sup>

いま一つ大口なのは Carlowitz & Co/Arnhold Karberg Co. への37.1万両の貸付である。これは、1912年6月に上記2社にドイツ・アジア銀行 Deutsch-Asiatische Bank と共同で貸付けた75,000ポンド（上海両438,853両——1912年平均の為替相場による）の残余である。75,000ポンドというのはHSBCの貸付額であり、ドイツ・アジア銀行も75,000ポンド相当額を貸付けた。この貸付は上記2社が湖南鉍山局 Hunan Board of Mines から5年間にわたって鉛と亜鉛の鉍石を供給される契約、すなわち現物による返済の契約を担保として行なわれた。この契約は元来は外交部とドイツ公使の仲介によって締結されたものであった。<sup>(38)</sup>

以上が上海店の1915年における主要業務であった。しかし単年度だけの実情では、時系列的な動きは分からない。幸いなことに、上海支店長 Branch Manager であった W. Adams Oram（1915年には支店検査役）の本店への1908年の分の報告書（毎週の）が残されている。これによって1904～8年の上海店の業務の実態が明らかになる。また1912～13年については支店検査役報告書を利用することができる。これの検討は将来の課題としたい。

## 付録Ⅱ

### チョップ・ローンについて

このローンについては、マクルデリー Andrea Lee McElderry, *Shanghai Old-Style Banks (Chi'en-Chuang) 1800-1935*, Ann Arbor, Michigan, 1976 に要をえた説明があるので、それを引用しよう。

「中国の貿易の外国サイドの金融だけでは外国銀行の資金のための十分な運用先が確保されなかった。そこで彼らは錢莊への折票ローン、すなわちチョップ・ローンの形で余剰資金の用途を見出した。これらのローンによって錢莊の運用資金がふえた。錢莊の小額の資本金と預金は成長して行く取引を金融するのには十分

ではなかった。…彼ら〔外銀〕は、中国商人が外国商人に支払うのに用いた錢莊発行の莊票の支払いを引きうけた。…19世紀においてはチョップ・ローンは1日又は2日のローンであって、無期限に延長されえた。外国銀行又は商社の買弁が錢莊へのローンを仲介し、そのローンの保証人となった。錢莊は担保として外国銀行に莊票すなわち土着銀行の手形を差し入れた。他の担保は必要とされず、したがって、実際上はこのローンは無担保だった。チョップ・ローンの利子は錢莊間の銀行間ローンの利子（銀折）と同じだった。錢莊はこの資金を運転資本として使い、取引の金融の為に中国、商人に貸付けた。外国銀行がこのローンを回収する時には、通常は1日又は2日の通知が与えられた。」<sup>(39)</sup>

チョップ・ローンの額は公表資料が存在するはずであるが、マクルデリーはその額は不明であるとして、1911年の『ノース・チャイナ・ヘラルド』紙を引用し、それは800万両であったとしている。<sup>(40)</sup> 表五に示した数字は、これがほぼ正確であったことを示すものである。

表五で明らかかなようにチョップ・ローンは著しく季節的な変化を示す。それは秋に最大になり、1～2月にはゼロに近い所までおち込む。そして、チョップ・ローンの利率は概してきわめて低い。上海支店長の本店に対する報告書（1908年8月2日）の中にチョップ・デイスカウントという表題の一節があるので、それを引用して見よう。

「私は買弁と長く話し合った。彼の考えでは、このポジションは全く安全である。彼の意見では、500万両、おそらくはそれ以上が一週間内に返済されうる。しかし、その〔返済〕資金がどのようにして調達されるかについては彼はあまりはっきりしない。外国商人に産物を押しつけるとか、外国商人から借入するというのが、彼の方法の一つである。彼の考えでは、利率を上げれば300～400万両がすぐに内陸からやってくる。しかし、現在の残高（2150万両）を全額3又は4ヶ月内に返済することは不可能である。そこで、実際には我々はチョップを流動資産 available resources の中に入れていますが、我々のチョップは本当はコール・マネーとはいえないのかもしれない。…この資金の用途については、私の買弁のいう所では、土着銀行〔錢莊のこと〕は商人に無担保貸付を与え、商人は米、茶、布などを買い、国内の諸地方にそれらを送り出す distribute …外国銀行に対する債務の金額は次の旧正月以

前に返済される。…上海には100行以上の土着銀行があり、そのすべては銀行ギルドに加入している。買弁の推定では、一行当り平均80万両の預金とすれば、預金は計8,000万両となる。そして彼らの貸付総額は8,000万～9,000万両と買弁は言う。彼らは政府には貸付けない。]<sup>(41)</sup> なお、ここに言う銀行ギルドとは共同租界の Pei Shi Ch'ien Yeh Hui Kuang (北市錢業會館) と共同租界外の錢莊のギルドである Nan-Shi Ch'ien Yeh Kung So (南市錢業公所) である。

更に買弁の言う所では、(1)市場利率は外国銀行が余剰資金を貸し急ぐので低くおさえられ、土着銀行はこれを利用して外国銀行を搾取 squeeze している。(2)横浜正金銀行は市場利率で土着銀行に貸付ける。(3)チャータード銀行とドイツ・アジア銀行はHSBCと同じ利率で貸付ける。すなわち、最低4%であり、今は市場利率2½%であるが、これら3行の貸付利率は4½%である。(4)インド・シナ銀行はHSBCより1%低い利率で貸付ける。(5)露清銀行は利率が不定で、時として非常に低い利率をオファーする。<sup>(24)</sup>

このようにHSBCは高い利率をつけるのでチョップ・ローン全体に占めるHSBCのシェアは大きくない。それは1908年6月に117.0万両で、貸付の962.1万両、当座貸越の703.7万両に比べるとマイナーな項目である。本文でも示したように横浜正金銀行などはチョップ・ローンを重要な資金運用方法としているのであるが、HSBCは多分このころにはチョップ・ローンの危険性を確認してその放出を手控えたのであろう。

表五に示したチョップ・ローンの統計は多分、外国銀行組合が公表したものである。しかし、この統計の所在を筆者はつきとめていない。これも将来の課題としよう。又、1911年以後はチョップ・ローン放出はやめられ、有担保の달러・ローンになった。

## 注

- (1) Kann, Eduard, *The Currencies of China*, Shanghai, 1927 (Reprinted edition by Ams Press, New York, 1975), p.146
- (2) *ibid.*, p.84
- (3) 藤田一郎, 加瀬正一編「貿易決済と貿易金融」有斐閣, 1954, p198
- (4) HSBC Group Archives, Fixed Deposits at 5% (SHG LEDG 894)

- (5) HSBC Group Archives, Interest at Credit of Depositors (SHG LEDG 894) Fos.102-104
- (6) HSBC Group Archives, General Ledger Balances-Tientsin Agency (SHG LEDG 894)
- (7) HSBC Group Archives, Interest at Credit of Depositors, 30 November 1889 (SHG LEDG 894)
- (8) HSBC Group Archives, General Ledger Balances-Tientsin Agency (SHG LEDG 894)
- (9) HSBC Group Archives, Inspector's Report on Tientsin Agency, 11 February 1915 (London II, Bank History, London Office Box No. 8, London Office Item No.123), p.22 (hereafter, locations of inspectors' reports in the HSBC Archives are omitted)
- (10) Inspector's Report on Peking Agency, 4 March 1915, p. 7
- (11) King, Frank H.H., *The Hongkong Bank in Late Imperial China 1864-1902*, Vol. I of the History of the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, Cambridge, 1987, pp. 275-7
- (12) Inspector's Report on Shanghai Branch, 25 April 1916, p.45
- (13) 平智之「日本帝国主義成立期、中国における横浜正金銀行」(東大「経済学研究」No.25, 1982年11月) p.439
- (14) Mitchell, B.R., *International Historical Statistics-Africa and Asia*, London, 1982, p. 389 and p.72
- (15) 浜下武志「近代中国の国際的契機」東大出版会, 1990, p.192
- (16) 浜下武志, 上掲書, p.188
- (17) 齊藤完治「南洋における華僑」, p.92 (ただし、田中徳義「支那幣制改革問題一斑」横浜正金調査報告, No.18, 1920, p.194より引用)
- (18) 浜下武志, 上掲書, p.188
- (19) 田中徳義, 上掲書, p.187
- (20) 外務省通商局「支那金融事情」1925, p.795
- (21) 1907-12年の中国(含香港)の銀収支は9292万両の流入超であり、本文に示した1909-13年の1億3,531万両の数字をかなり下回る(田中徳義, 上掲書, pp.188-9).

- (22) 田中徳義, 上掲書, pp.188-9
- (23) 外務省通商局, 上掲書, p.791 (原文の片仮名, 旧仮名ずかいを平仮名, 新かなずかいに直した)
- (24) Inspector's Report on London Office, 6 November 1911, p. 6
- (25) *ibid.*, p. 6
- (26) *ibid.*, p.16
- (27) *ibid.*, p.17
- (28) *ibid.*, p.18
- (29) *ibid.*, p.18
- (30) Managerial Correspondence, Shanghai Branch Manager (W. Adams Oram) to J.R. M. Smith, Hong Kong, 31 Aug. 1908によると1908年1-8月の新規大口預金37口61.2万両のうち, 中国人, 中国系企業の預金は, わずか3口6.2万両にすぎなかった。
- (31) 田中徳義, 上掲書, p.79
- (32) Inspector's Report on Shanghai Branch, 25 April 1916, p. 7
- (33) Inspector's Report on Shanghai Branch, 22 October 1915, pp.12-35
- (34) Inspector's Report on Shanghai Branch, 25 April 1916, p. 7
- (35) *ibid.*, p.45
- (36) Inspector's Report on Shanghai Branch, 22 October 1915, p.64
- (37) *ibid.*, p.68-9
- (38) *ibid.*, p.69
- (39) McElderry, Andrea Lee, *Shanghai Old-Style Banks (Ch'ien Chuang) 1800-1935*, Ann Arbor, Michigan, 1976, p.21
- (40) *ibid.*, p.22
- (41) Managerial Correspondence, Shanghai Branch Manager (W. Adams Oram) to J. R. M. Smith, Hong Kong, 7 August 1908, pp. 1-2

(本論文のための研究は法政大学特別研究助成金, 財団法人学術振興野村基金および財団法人日本証券奨学財団による助成を受けた。記して謝意を表する)